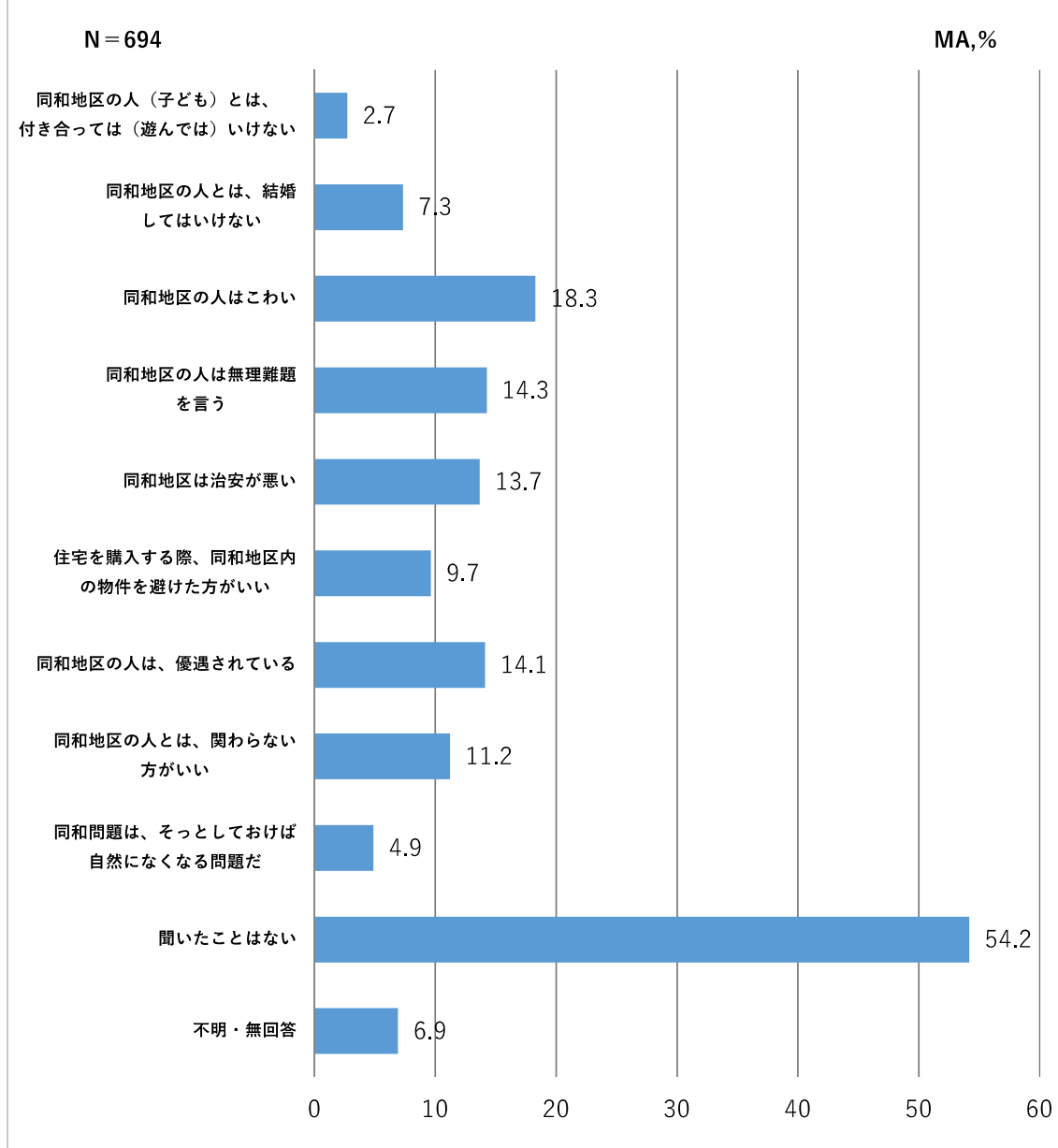


4 同和問題に関する発言

問4 あなたは、この5年くらいの間で同和問題（部落差別）に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。（○はいくつでも）

[図4-1 同和問題に関する発言を聞いた経験]



同和問題に関して、差別的な内容であったり、誤解にもとづく内容などの具体的な発言を9つあげ、この5年くらいの間でそれらの発言を直接、聞いたことがあるかを問うと、「聞いたことがない」が54.2%、「不明・無回答」が6.9%であった。したがって、聞いたことがあるのは38.9%となる。発言のなかで最も多いのは、「同和地区の人はこわい」で

18.3%、これに「同和地区の人は無理難題を言う」(14.3%)、「同和地区の人は優遇されている」(14.1%)、「同和地区は治安が悪い」(13.7%)が続く。ここにあげた 9 種類の発言（「同和地区の人（子ども）とは付き合っては（遊んでは）いけない」から「同和問題はそっとしておけば自然となくなる問題だ」まで）を聞いたことがあるという割合を足すと 96.2%、これらの発言のいずれかを聞いた経験がある人は 38.9%だったので、聞いた経験がある人は、9種類の発言のうち、平均して2.5種類の発言をこの5年間に聞いたことになる（ $96.2 \div 38.9 \approx 2.5$ ）。同和問題に関して差別的な内容や誤解に基づく内容の発言を直接聞くという機会は、決して少なくないといえる。

[表 4-1 同和問題に関する発言を聞いた経験 (性・年齢別)]

(上段：人、下段：%)

	回答者数	同和地区の人(子ども)とは、付き合い ては(遊んでは)いけない	同和地区の人とは、結婚しては いけない	同和地区の人はこわい	同和地区の人は無理難題を 言う	同和地区は治安が悪い	住宅を購入する際、同和地区 内の物件を避けた方がいい	同和地区の人は、優遇されて いる	同和地区の人とは、関わり ない方がいい	同和問題は、そっとしてお けば自然になくなる問題だ	聞いたことはない	不明・無回答	
総数	694 100.0	19 2.7	51 7.3	127 18.3	99 14.3	95 13.7	67 9.7	98 14.1	78 11.2	34 4.9	376 54.2	48 6.9	
性別	男性	291 100.0	9 3.1	24 8.2	58 19.9	46 15.8	37 12.7	29 10.0	47 16.2	38 13.1	16 5.5	159 54.6	14 4.8
	女性	379 100.0	10 2.6	26 6.9	66 17.4	50 13.2	56 14.8	36 9.5	50 13.2	36 9.5	17 4.5	205 54.1	30 7.9
年齢別	18-19歳	33 100.0	— —	— —	5 15.2	— —	4 12.1	— —	— —	1 3.0	1 3.0	26 78.8	— —
	20歳代	59 100.0	4 6.8	6 10.2	10 16.9	2 3.4	14 23.7	4 6.8	4 6.8	8 13.6	2 3.4	42 71.2	— —
	30歳代	71 100.0	1 1.4	7 9.9	18 25.4	15 21.1	21 29.6	12 16.9	6 8.5	9 12.7	3 4.2	27 38.0	5 7.0
	40歳代	97 100.0	2 2.1	8 8.2	26 26.8	16 16.5	22 22.7	15 15.5	14 14.4	12 12.4	1 1.0	51 52.6	5 5.2
	50歳代	117 100.0	3 2.6	10 8.5	21 17.9	19 16.2	17 14.5	9 7.7	19 16.2	11 9.4	1 0.9	74 63.2	1 0.9
	60歳代	155 100.0	5 3.2	12 7.7	32 20.6	29 18.7	16 10.3	13 8.4	26 16.8	21 13.5	12 7.7	77 49.7	11 7.1
	70歳以上	182 100.0	6 3.3	11 6.0	22 12.1	17 9.3	8 4.4	13 7.1	29 15.9	16 8.8	16 8.8	96 52.7	22 12.1

男女別にみると、「聞いたことはない」の割合は男女ほぼ同じで、「不明・無回答」は女性のほうが高かったため、この5年間に9種類の発言のいずれかを聞いたのは男性で40.6%、女性で38.0%となる。発言内容では「同和地区の人はこわい」が男女とも最も多く、これに男性では「同和地区の人は、優遇されている」、女性では「同和地区は治安が悪い」が続く。図4-1と同じように、9種類の発言について、それを聞いたことがあるという割合をそれぞれ足したものを9種類の発言のいずれかを聞いたことがある人の割合で割って、この5年間に9種類の発言のいずれかを聞いたという人が何種類の発言を聞いたのかを算出すると、男性2.6種類、女性2.4種類であった。

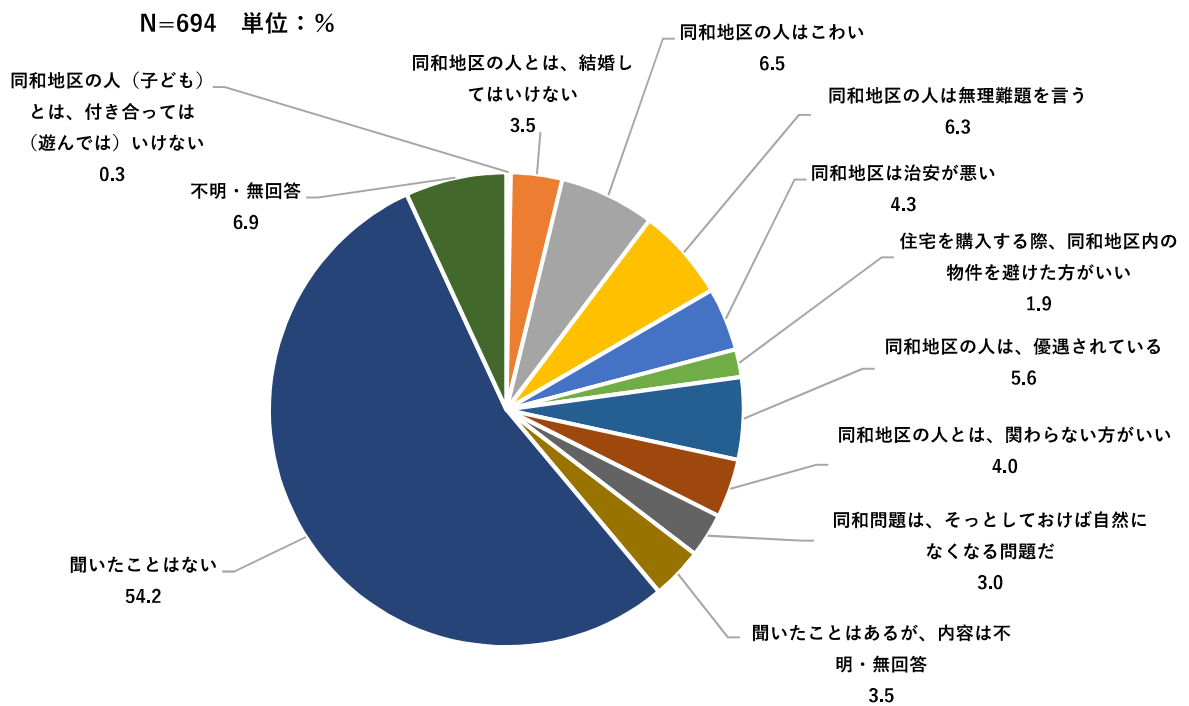
年齢別でみると、「聞いたことがない」の割合は18-19歳と20歳代で7割台と多く、30歳代で38.0%と少なくなっている。この5年間に9種類の発言のいずれかを聞いたことがあるという人の割合は、18-19歳21.2%、20歳代28.8%、30歳代55.0%、40歳代42.2%、50歳代35.9%、60歳代43.2%、70歳以上35.2%であり、30歳代の半数以上がこの5年間に同和問題に関する差別的な発言などを聞いていることになる。そして、9種類の発言のいずれかを聞いたことがあるという人が何種類の発言を聞いたかを算出すると、18-19

歳 1.6 種類、20 歳代 3.2 種類、30 歳代 2.4 種類、40 歳代 2.8 種類、50 歳代 2.6 種類、60 歳代 2.5 種類、70 歳以上 2.2 種類となる。20 歳代と 40 歳代では、この 5 年間に同和問題に関する差別的な内容や誤解にもとづく内容の発言を 3 種類ほども聞いているのである。

発言内容についてみると、「同和地区の人はこわい」は 30 歳代と 40 歳代で多く、それぞれ 25.4%、26.8%となっており、「同和地区は治安が悪い」は 30 歳代が多い (29.6%)。

問4-1 問4-1～問4-3は、問4で「1」～「9」を選んだ方にお聞きします。最も印象に残っているもの、ひとつについてお聞きします。問4でひとつだけ○をされた方は、同じものを選んでください。いくつか○をされた方は、最も印象に残っているものを選んでください。（1つだけに○）

[図4-2 最も印象に残っている同和問題に関する発言]

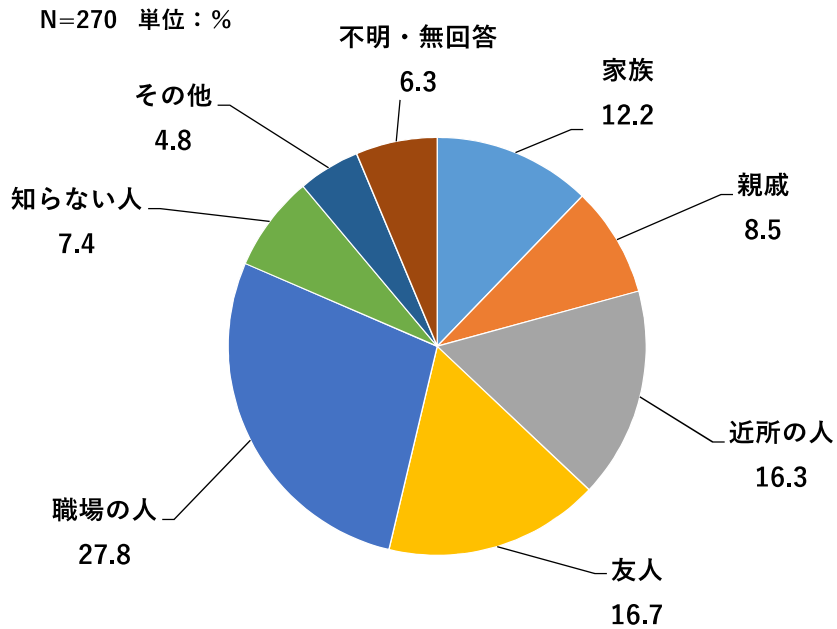


問4は、調査票にあげた同和問題に関する9種類の発言について、それを直接聞いたことがあるという発言をいくつでも選ぶ複数回答であったが、問4-1は、聞いたことがある発言が2種類以上ある場合は、最も印象に残っているもの一つを選ぶという単一回答となっている。

9種類の発言のなかで、最も多かったのは「同和地区の人は怖い」で6.5%、これに「同和地区の人は無理難題を言う」（6.3%）、「同和地区の人は優遇されている」（5.6%）が続いている。

問4-2 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。
(1つだけに○)

[図4-3 誰から聞いたのか]



同和問題に関して差別的な内容や誤解にもとづく内容の発言（最も印象に残っているものひとつ）を誰から聞いたのかを問うと、「職場の人」が最も多く（27.8%）、ついで「友人」（16.7%）、「近所の人」（16.3%）、「家族」（12.2%）となっている。

[表4-2 誰から聞いたのか(性・年齢別)]

(上段:人、下段:%)

		回答者数	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	不明・無回答
総数		270 100.0	33 12.2	23 8.5	44 16.3	45 16.7	75 27.8	20 7.4	13 4.8	17 6.3
性別	男性	118 100.0	18 15.3	5 4.2	18 15.3	27 22.9	31 26.3	10 8.5	5 4.2	4 3.4
	女性	144 100.0	14 9.7	18 12.5	25 17.4	18 12.5	42 29.2	8 5.6	8 5.6	11 7.6
年齢別	18-19歳	7 100.0	2 28.6	—	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	—	1 14.3
	20歳代	17 100.0	5 29.4	3 17.6	1 5.9	4 23.5	1 5.9	1 5.9	—	2 11.8
	30歳代	39 100.0	5 12.8	4 10.3	3 7.7	3 7.7	17 43.6	3 7.7	3 7.7	1 2.6
	40歳代	41 100.0	6 14.6	3 7.3	7 17.1	6 14.6	14 34.1	1 2.4	2 4.9	2 4.9
	50歳代	42 100.0	5 11.9	2 4.8	7 16.7	5 11.9	19 45.2	1 2.4	3 7.1	—
	60歳代	67 100.0	9 13.4	7 10.4	13 19.4	12 17.9	18 26.9	4 6.0	2 3.0	2 3.0
	70歳以上	64 100.0	4 6.3	6 9.4	13 20.3	15 23.4	6 9.4	8 12.5	3 4.7	9 14.1

性別では、男女とも「職場の人」が最も多く、男性ではこれに「友人」(22.9%)が続き、女性では「近所の人」(17.4%)が続く。そして、男女を比べると、「家族」と「友人」は男性のほうが多く、「親戚」は女性のほうが多くなっている。

発言を直接聞いたことがあるという回答が30を超える30歳以上の各年齢層についてみると、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「職場の人」が最も多く、70歳以上では「友人」が最も多くなっている。「職場の人」の割合は、30歳代で43.6%、50歳代で45.2%と、4割台に達しており、職場において同和問題に関する差別的な発言などに出会うことが多いということがわかる。事業所における人権研修の課題が大きいといえる。

[表4-3 発言内容別誰から聞いたのか(問4-1×問4-2)]

(上段:人 下段:%)

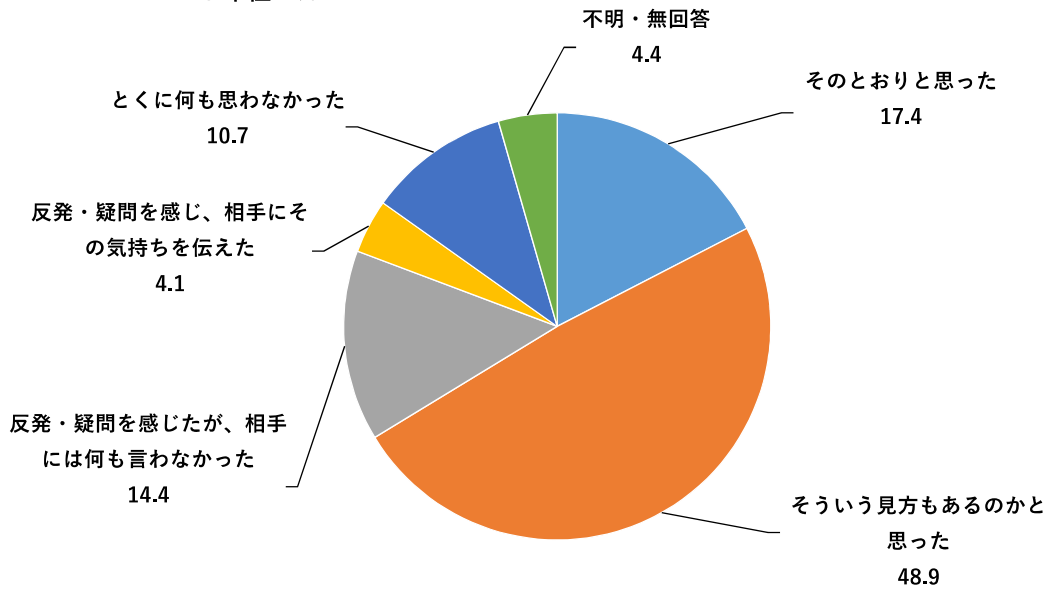
		問4-2 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(1つだけに○)								
		回答者数	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	不明・無回答
問4-1 最も印象に残っているもの、ひとつについてお聞きします。問4でひとつだけ○をされた方は、同じものを選んでください。いくつか○をされた方は、最も印象に残っているものを選んでください。	総数	158 100.0	16 10.1	11 7.0	28 17.7	25 15.8	50 31.6	13 8.2	10 6.3	5 3.2
	同和地区の人はこわい	45 100.0	9 20.0	3 6.7	9 20.0	3 6.7	14 31.1	4 8.9	2 4.4	1 2.2
	同和地区の人は無理難題を言う	44 100.0	—	3 6.8	6 13.6	6 13.6	24 54.5	2 4.5	3 6.8	—
	同和地区は治安が悪い	30 100.0	6 20.0	2 6.7	1 3.3	6 20.0	8 26.7	3 10.0	2 6.7	2 6.7
	同和地区の人は、優遇されている	39 100.0	1 2.6	3 7.7	12 30.8	10 25.6	4 10.3	4 10.3	3 7.7	2 5.1

図4-1で、調査票に示した9つの発言内容のうち、それを選択した回答者が30人を超える4つの発言内容について、それぞれ誰から聞いたのかをみると、「同和地区の人はこわい」「同和地区の人は無理難題を言う」「同和地区は治安が悪い」については「職場の人」が最も多く(順に31.1%、54.5%、26.7%)、「同和地区の人は、優遇されている」については「近所の人」が最も多くなっている(30.8%)。

問4-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(1つだけに○)

[図4-4 どう感じたのか]

N=270 単位：%



発言を聞いたとき、どう感じたかを問うと、「そういう見方もあるのかと思った」が48.9%で最も多く、これに「そのとおりに思った」(17.4%)、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」(14.4%)が続く。そして、「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」は4.1%なので、これに「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」(17.4%)を足すと、発言に対して反発・疑問を感じたのは、18.5%となる。一方、「そういう見方もあるのかと思った」という感じ方は、一見中立的であるが、その発言内容に迎合してしまう可能性もあり、これに「そのとおりに思った」(17.4%)と「とくに何も思わなかった」(10.7%)とを合わせると、77.0%になる。このように、同和問題に関して差別的な内容や誤解にもとづく内容の発言を直接聞いても、反発・疑問を感じた人は2割に満たず、その問題性に気づかない人が多いといえる。

[表 4-4 どう感じたのか (性・年齢別)]

(上段：人、下段：%)

		回答者数	たそのとおりに思った	るそういう見方もあった	も言わなかつた	たが、疑問を感じ	反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた	感じ、相手にその気持ちを伝えた	か、何も思わなかつた	不明・無回答
総数		270 100.0	47 17.4	132 48.9	39 14.4	11 4.1	29 10.7	12 4.4		
性別	男性	118 100.0	21 17.8	51 43.2	18 15.3	9 7.6	15 12.7	4 3.4		
	女性	144 100.0	24 16.7	78 54.2	20 13.9	2 1.4	13 9.0	7 4.9		
年齢別	18-19歳	7 100.0	1 14.3	3 42.9	— —	— —	2 28.6	1 14.3		
	20歳代	17 100.0	3 17.6	3 17.6	6 35.3	3 17.6	2 11.8	— —		
	30歳代	39 100.0	8 20.5	20 51.3	4 10.3	2 5.1	5 12.8	— —		
	40歳代	41 100.0	10 24.4	17 41.5	6 14.6	1 2.4	7 17.1	— —		
	50歳代	42 100.0	5 11.9	26 61.9	6 14.3	2 4.8	3 7.1	— —		
	60歳代	67 100.0	13 19.4	32 47.8	13 19.4	2 3.0	5 7.5	2 3.0		
	70歳以上	64 100.0	8 12.5	32 50.0	6 9.4	1 1.6	8 12.5	9 14.1		

性別では、「そのとおりに思った」という回答割合は男女ほぼ同じであるが、「そういう見方もあるのかと思った」という回答割合は女性のほうが男性よりも 11 ポイント多く、「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」は、男性で7.6%であったのに対し、女性は1.4%と、非常に低くなっている。

回答者が30人を上回る30歳以上の各年齢層についてみると、「そのとおりに思った」は40歳代で多く(24.4%)、「そういう見方もあるのかと思った」は50歳代が多い(61.9%)。そして、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」は60歳代で多く(19.4%)、これに「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」を加えた「反発・疑問を感じた」という回答も60歳代が多い(22.4%)。

[表4-5 発言内容別聞いたときどう感じたのか (問4-1×問4-3)]

(上段：人 下段：%)

	回 答 者 数	問4-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(1つだけに○)						
		思 っ た と お り と	た あ そ う の い か う と 見 方 つ も	か は じ 反 つ 何 た も が ・ 言 わ な 手 に	反 発 ・ 疑 問 を 手 伝 え た の 感	気 じ 反 持 ち ・ 相 疑 問 を 感	な か く に 何 も 思 わ	不 明 ・ 無 回 答
問4-1 最も印象に残っているもの、ひとつについてお聞きします。問4でひとつだけ○をされた方は、同じものを選んでください。いくつか○をされた方は、最も印象に残っているものを選んでください。	総数	158	40	82	17	6	12	1
		100.0	25.3	51.9	10.8	3.8	7.6	0.6
	同和地区の人はこわい	45	12	21	5	2	5	—
		100.0	26.7	46.7	11.1	4.4	11.1	—
	同和地区の人は無理難題を言う	44	15	22	4	2	1	—
		100.0	34.1	50.0	9.1	4.5	2.3	—
	同和地区は治安が悪い	30	6	15	4	2	3	—
		100.0	20.0	50.0	13.3	6.7	10.0	—
同和地区の人は、優遇されている	39	7	24	4	—	3	1	
	100.0	17.9	61.5	10.3	—	7.7	2.6	

表4-3と同様に回答者が30人を超える発言内容について、それを聞いてどう感じたのかをみると、「そのとおりと思った」が最も多いのは「同和地区の人は無理難題を言う」(34.1%)で、最も少ないのは「同和地区の人は優遇されている」(17.9%)であった。「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」は、どの発言内容でも10%前後で、「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」についても、それぞれ7%を下回っている。この2つを合わせた「反発・疑問を感じた」は、「同和地区は治安が悪い」という発言内容で20%と、最も多くなっている。いずれの発言内容についても、反発・疑問を感じたという人は少数派となっている。

同和問題に関する差別的な内容や誤解にもとづく内容の発言を聞いた際に、それを鵜呑みにしたり、それに迎合する人が多数派を占める限り、部落差別はなくならないばかりか、再生産されるであろう。同和問題に関する差別的な発言などを聞いた際に、反発や疑問を感じる人をどのようにして増やしていくのか、同和教育・啓発の課題は非常に大きいといえる。